

第2回 ふくしま元気トーク まとめ



【開催概要】

日時	令和元年9月29日(土) 午前10時30分～正午
テーマ	多文化共生のまちづくり
場所	民家園 旧広瀬座
出席者	(1) ドノヴァン アンダーソンさん (5) サインヤン トバヤルさん (9) 渡辺洋子さん (2) チャン ロバートさん (6) 星レニーさん (10) 五十嵐由佳さん (3) 許東暁さん (7) 永遠瑠ルーシーさん (11) 橋本花帆さん (4) 石田セシリアさん (8) ガラール真紀さん
(福島市)	木幡市長

【1 市長あいさつ】

皆さんおはようございます。福島市長の木幡です。本日はふくしま元気トークにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。これから外国にルーツを持つ方にも、本当に住みやすく住んでいただけるような、福島市をつくっていききたいということで開催しました。

震災後、福島市に住む外国の方は大幅に減少しましたが、ようやく増えてきてまして、現在は震災前を上回る状況になっています。外国からの観光客も徐々に増え、今年前半は震災前の4倍ペースで宿泊客が増えている状況です。国でも外国人労働者の受け入れ拡大により、外国の方にも日本で活躍していただくという動きになっていますので、福島もこれからそういう動きがもっと大きくなってくると思います。

ご承知のように、本市は東日本大震災で大きな痛手を受けましたが、一方で世界的にも知名度のある街になりました。私としては知名度を逆手にとって、外国からも多くの人に集まってもらい、賑わいと活力のある福島をつくっていききたいと思っています。そのためにも、本市が外国の方にも住みやすく、そしてネイティブと打ち解け合える、そういう地域にしていきたいと思っていますので、今日はさまざまな視点からご意見をいただきたいと思っています。

【2 主な発言内容】

(1) 福島の好きなところ

- 春夏秋冬をとおして、さまざまなフルーツを食べることができることです。
- 福島の自然と、みんなで話せる雰囲気や文化が好きです。
- 自然がたいへん豊かで、子どもを育てるには本当にすばらしい環境だと思います。自然があって果物や野菜もおいしくて、穏やかな気持ちで子育てができます。
- 空気がきれいなこと。水道水がそのまま飲めること。夏は海水浴で浜の方へ、冬はスキーにも行けるなど位置的に便利であること。近くに大きな病院があり医療機関が充実していることです。
- 近くに大学があるのはとても良いことで、もっと市内に大学があると面白いと思います。

(2) 福島に住んでみて困った経験など

- 外国人が大学関連で福島に来る場合は、初めからコミュニティーがあって友達ができやすい環境なので非常に楽だと思います。ただし、仕事で来る場合は、職場以外で日本人と関わる機会が余りないので、福島はせっかく良いコミュニティーがあるのに、情報力が足りないとそこに入ることができないという問題があります。日本人となかなか友達ができない外国人をマッチングして、友達になってもらうことが重要だと思います。

- 自分のレベルに合った指導や専門的な日本語を教えてくれる場がないと聞いています。また、福島では、アルバイトはあるのですが、正社員として語学力を生かせる仕事がなかなか見つからないという状況があります。
- 一人暮らしの外国人の場合、言葉がわからない、家族も誰も助ける人がいないときに、病気になると本当に大変だと思います。お医者さんに対しても、本人しかわからないちょっとしたニュアンスを伝えるときなど、誰かがその事を伝える通訳が必要だと思います。
- イスラム教は1日5回礼拝しなければならない。イスラム教の国は数多くあるので、インターナショナルの関係で福島市にも礼拝所が欲しいと感じています。
- 礼拝所は、例えばカーテンとかで仕切れるような場所。お祈りするときは必ず手足や頭を洗い、身を清める儀礼があるので、近くにトイレがあるといいと思います。そういう場所があれば、おもてなしをしていると受け止めてもらえると思います。

市長 ●勉強とかではなく働く場所がないというのが勿体ないですね。ぜひ、そういう活動の場を観光などでもっと生かしていきたいですね。

●病気への対応は、我々も外国に行ったら一番不安なところですよ。逆の立場からすれば、必ず必要なことだと思います。病院側も、ある程度の情報開示をしているのかもしれませんが、もっと統一的に情報開示した方がいいですね。

●礼拝所の設置は良い提案ですが、日本の場合難しいのは、宗教と行政は分離しなければならないという原則があるので、民間レベルで設置するとかにならないと難しいと思います。

(3) 多文化共生のまちに向けて、これから必要な取り組みなど

- 日本の文化と外国の文化が交流する機会が少ないということをよく聞きます。最近では異文化交流として、外国の方たちと接する機会や、いろいろなイベントが少しずつ開催されるようになってきましたが、福島の方と外国の方が交流する機会がもっと増えればいいと思っています。
- シカゴでの経験ですが、多民族文化なので、たくさんの方から教会に人が集まり、国を決めてそれぞれの国の文化を紹介するイベントが毎月ありました。福島でもカフェの集いを行っているのは知っていますが、今は小規模なので、さらに内容を面白くしたりして、大きな集いにできたら、それこそコミュニティもすごく広がると感じています。
- レストランなどで食べることができない食材があるので、何を使って料理をしているのか分かるようにするなど、心遣いがあるだけでも全然違ってきます。ハラールとかムスリムの対応に理解が進み、少し歩み寄ってもらえれば、もっと交流ができるのかなと感じています。
- 日本人にとって肌色というのは日本人の肌の色であって、多分、外国に行くと肌色って違う色になります。今はクレヨンもペールオレンジと書いていますが、親御さんが子どもに教えるときに、今も肌色と教えてしまうことがあるようです。そういうところがまだまだ理解が得られていないことが残念です。例えば、外国にルーツのある方と日本人の交流が、小規模ではなくもっと大きな交流の輪として広がっていけば、いろいろな人がいるということ子どもたちにも分かってもらえるのかなと思います。
- 福島に移り住む子どもには、学校でも日本語の個別サポートをしていると思いますが、その時間が足りなくて、なかなか学習についていけないことがあるようです。字が読めないと言語だけでなく、他の授業にもついていけなくなります。義務教育なので卒業はできますが、その後の進路には、なかなかつながらないということもあります。そのことについて、市でも考えていただき、なるべくサポートの時間を増やしていただければありがたいです。
- 学校の授業でイギリスとの交流プログラムがあります。震災前は私たちがイギリスに行くだけでなく、イギリスからも福島に来てくれていたのですが、今はイギリスの方が福島に来ることができず、東京で交流を行う形になっています。福島は安全だという現状を知ってもらえる機会を学校の交流から増やして、福島に実際に来てもらい、たくさん交流できるようになればいいなと思っています。

(⇒定住交流課)

桜の聖母とオーストラリアのモナシュ大学との間で、テレビ会議を通して交流を行いました。桜の聖母では、福島現状を勉強するのに福島の文化や歴史を勉強する福島学という授業があります。南相馬市にフィールドワークに行き、南相馬市現状を自分の目で確かめてから、モナシュ大学の学生に原発についてどう思うか、福島はどんな印象なのかという質問をするなどの交流を行ったところです。

市長

- 日本では、これまで日本文化に対する教育を余りしてきていない面があると思います。自分たちの文化をしっかりと見つめ直す必要があると思っています。福島も外国人に対して、いろいろな形で自分たちの地域を紹介できるようにしなければいけないと思っています。
- 今の親御さんの世代は、多分肌色とは言わなくなっていると思いますが、私より上の年代は、つい肌色と言ってしまふことが多いかもしれません。文化というか多様性を学ぶ、あるいは多様性があって当たり前ということを学ぶことが一番大事だと思います。
- 本市のこれまでの国際交流は、外国へ行って経験させるとか、外国でイベントを行うことが国際交流だとしていました。大事なことは本当にわかり合える基盤をつくっていくことだと思っています。そういった面で、本市では今回の意見交換をはじめ、国際交流のあり方を大きく変えようとして取り組んでいます。
- 学校の現場も大変なので、きめ細かな対応はなかなか出来ないのが実態だと思います。大学が近い関係で蓬萊地区は外国の方が多いですよね。外国の方が多地域を一種の国際交流の拠点みたいにして、普通の授業を行うのとは別に、いわゆる別室学習みたいな感じで日本語をきめ細かに勉強してもらい取り組みがあってもいいのかなと思っています。
- 桜の聖母短期大学のように交流する機会も始まっているので、高校でもうまく市の機能を活用してもらえればいいと思います。桜の聖母の生徒は英語で、モナシュ大学の生徒は日本語で交流したので、お互いの語学の勉強にもなって良かったということですね。

(4) その他

- 福島は長期プランが苦手なのかなと感じています。例えば、ITやAIなど、これからの産業を長期的なプランでつくってほしいです。
- 福島のネガティブニュース、放射能で危ないというニュースを観ている人に、福島は安全なところだということを伝えたいと思っています。
- 観光客を増やし満足度を高めるためには、アプリが便利だと思います。例えば、福島市でぜひ見てほしい場所を決めて、花見山に行ったら目標達成でGPSポイントが入るようなゲーム感覚のアプリがあったら面白いと思います。
- 温泉、飲食店、宿泊先など外国人が利用しそうなのに、英語のメニューや注意事項などがウェブサイト以外にもあるといいと思います。例えば、レストランにQRコードがあって、それを読み取ると全メニューが英語で表記されるというアイデアも良いと思います。

【3 まとめ】

今日は皆さんからいろいろなご意見をいただきまして、ありがとうございました。私も、皆さんのご意見を踏まえて、1つには長期的な方針というか基本的な方針を立てなければならないと思っています。福島市では国際化策とか、基本的な方針がありませんでしたので、皆さんのご意見を聞いたり、あるいはアンケートをとりながら、多文化共生に対する方針をつくりたいと思っています。

その一方で、方針をつくらないと一歩も動かないのではなく、本日いただいた話の中ですぐに動けそうな内容もありましたので、できるだけ早く実現したいと思っています。本日は、特に外国にルーツのある人は、なかなかこの旧広瀬座で、和服で会議する経験はできないことだと思いましたので、そういう点では日本側からの文化の体験もしていただいたと思っています。これからもぜひ、外国のルーツも日本のルーツも、共に生き生き暮らせる福島をつくってまいりましょう。ありがとうございました。

参加者の感想

- とても楽しかったので、もっと多くの方に参加いただきたいです。メンバー選出について、現参加者からの紹介や、近くにJICAもありますのでコラボもありかなと思いました。
- 庁舎を飛び出しての「トーク」は、担当者の大変さはあるでしょうが良い企画だと思います。普段なかなか話の聞けない人たちとテーマで、いろいろな場所でトライしてほしいと思います。
- 多文化共生は、長いスパンで考えていくべきと思うので、ぜひ子どもの教育に「多文化共生」からの「自国をみつめる」内容を取り入れていただきたいです。
- まだまだ話し合いたい事が沢山あって、それだけ充実した時間が過ごせたと思います。今回のテーマでディスカッションする事は、福島市が発展していくためにも大切なチャンスと感じました。もっと多くの市民の観覧（参加）があれば良かったなと、そこだけは少し残念です。
- テーマや進め方などの詳細について、事前に把握できればもっと効率的に進められたと思います。

